

平成 25 年度 第 3 回大阪府立吹田高等学校学校協議会 記録

○日 時：平成 26 年 3 月 8 日（土） 午後 2 時～午後 4 時

○場 所：大阪府立吹田高等学校 本館 2 F 会議室

○主なテーマ

1. 平成 25 年度 学校経営計画及び学校教育自己診断結果について
2. 平成 26 年度学校経営計画及び学校評価（案）について

○出席者（敬称略、委員は 50 音順）

会長 白井 孝雄（大阪薫英女学院中学校・高等学校 校長）

委員 井村 朗子（本校 後援会会長）

川辺 浩一（本校 P T A 会長）

土井 実（鳳志会 副会長）

校長 村田 徹

○事務局

中埜 高彦（事務長）、大西 英之（首席）、手島 肇（首席）、池田 延孝（生徒指導主事）

大島 直子（進路指導主事）

■委員から出された主な意見等

【平成 25 年度 学校経営計画及び学校教育自己診断結果について】

- 授業アンケート結果の分析後、教科・科目ごとに質の向上に向けた話し合いを持つとともに、教務部が中心になって、各教科から出された授業改善に向けた創意工夫等を集約し、全教員にフィードバックしているとお聞きしたが、生徒の授業に関する満足度（肯定率）が、76.3%であった。76%といえば、かなりの高評価であるが、学校の評価は、目標に達していないとしており、若干自己採点が厳しいのではと感じる。今後も、授業の質の向上を図り、目標を達成する取組みを期待する。
- 遅刻数が一定の下げ止まり感じがあるとの説明であったが、一方で「1,000 字書写」と丁寧な生徒との話し合いにより、遅刻数が減少したのも事実である。遅刻の原因としては、「寝坊や学校生活への嫌気」など様々な理由があると思うが、今後は、遅刻常習者を減らす工夫とともに、常習者を出さないような新たな指導方法などを模索し、遅刻数がますます減少し、落ち着いた環境で勉強できるようにしていただきたい。

- 「吹田進路プログラム (SSP)」の策定など、進路指導においてもしっかりと取り組んだ結果、生徒・保護者の満足度等において目標数値を上回った、大変な努力の結果と評価したい。ただ、「こども未来専門コース」を選択した生徒の進路先として保育関係が若干少ないように感じる。26年度に吹田市と協力して実施する「保育実習」でしっかりと成果をあげ、目的に応じた進路実現に努めてほしい。
- 自己評価の結果、残念ながら目標達成ができなかった項目もあるが、総体的に見ればこの間の改革・行動により大きな結果・成果が出ている。何かを変えていこうとするときには、一般的に現状打破と現状維持の意見が2分されるが、吹田高校は「生徒の為・生徒の向上」という目的意識が明確で、教員のまとまりがよいので成果が表れてきたのだと思う。今後は、さらに高みをめざして、教員・生徒がさらに一体となり、さまざまな角度から生徒にアプローチして、よりよい学校となっていただきたい。
- 遅刻数の減少については、目標が達成できなかったということだが、学校の立地条件もありかなり厳しい設定目標だった。家庭でも学校の方針を理解し、何とか遅刻させないように努めているが、なかなか改善できないというのが実情である。しかし、遅刻は社会的にも信頼をなくす行為であり、今後とも遅刻減少に向けて、学校と力を合わせていきたい。
- 3年前と比べると、「吹高」は本当に変わったなあ、と感じる。地域の方々からも、そのような言葉をよくお聞きするが、少し厳しく言わせていただくと「変わったのは当たり前。あらためてスタートラインに立った」という認識で、さらに内容を高めていってほしい。
- PTAも体育祭や文化祭などに関わっているが、学校運営にPTA(保護者)が参画すること、保護者も生徒と一緒に何かをしよう、共に向上しようという意識が大切だという認識が高まってきた。今後も、楽しくPTA活動をしながら学校の実態・内容をしっかり観察し、学校の質の向上に寄与したい。

【H26年度学校経営計画及び学校評価(案)に関して】

- H23年度以降、「運営委員会による意思決定」、「土曜講習」「SSPの策定・実施」「WJKによる授業方法の改善」「丁寧な授業アンケートのふりかえりに基づく授業改善」等々、実に様々な取り組みにより、大きな成果をあげていただいた。来年度も、これらの取り組みをさらに定着させることで、全ての項目において目標を達成していただけるものと確信している。

【まとめ】

- 今年度の取り組みは、概ね高く評価している。来年度以降も、教職員が一致団結して、スピード感と同時に丁寧さを忘れることなく、吹田高校のさらなる改革、発展に尽力していただきたい。